

教 科	国語	科 目	現代の国語
単 位 数	2単位	学年・類型	第1学年・全クラス
使用教科書	高等学校 現代の国語 (第一学習社)		
補助教材等	常用漢字ダブルクリア五訂版(尚文出版)		

1 学習目標

- 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにします。
- 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにします。
- 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

2 学習方法

- 連絡した予習課題をして、授業に臨んでください。実践力を養うために、週末課題を出します。家庭学習を充実させましょう。
- 内容を的確に読み取る力を養うため、様々な文章を学習します。辞書を使って語句調べをしたり、漢字の学習をしたりして、言語感覚を磨きましょう。また、優れた表現は自分の文章にも使ってみましょう。

3 学習評価

(1) 評価の観点の趣旨と方法

観点 \ 評価	評 価 の 観 点 の 趣 旨	評 価 の 方 法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	○授業態度や発表 ○定期考査・課題テスト ○課題やノートの取り方 ○作品の感想文 ○週末課題の内容
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	○授業態度や活動・発表 ○作品の感想や感想文 ○定期考査・課題テスト ○課題やノートの取り方 ○週末課題の内容
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持とうとしている。	○授業態度や発表 ○定期考査・課題テスト ○課題やノートの取り方 ○作品の感想文

(2) 各学期及び学年末の評価

- 各学期の評価は、定期考査、課題テスト、小テストなどの成績、ノートや課題などの提出状況、作文や感想文などの評定、授業態度・出席状況、授業中の発表を総合して行います。
- 学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

4 学習のポイント

- 現代文分野では、授業をしっかり聴くことだけではなく、普段から様々な文章を読むことに挑戦していきましょう。実践力を付けるためには、自学自習が大切です。また、週末課題をいかに工夫して、自分に役立つ勉強にすることが、成績向上の早道です。地道に勉強を積み重ねていきましょう。

5 学習計画（予定）

月	学習項目	学習のねらい・学習活動
4	〈課題テスト〉 「本当の自分」幻想 (平野啓一郎)	・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考えます。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握します。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈します。 ・ものの見方や捉え方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述します。
5	羅生門（芥川龍之介）	・下人の行動や心理を基に場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述します。 ・常用漢字を文や文章の中で活用します。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにします。 ・比喩などの修辞を理解します。 ・主張と論拠など、情報と情報との関係を理解します。 ・読書の意義と効用を理解します。
6		・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えます。 ・内容の解釈を踏まえて粘り強く下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して鑑賞文を書きます。
7	水の東西（山崎正和）	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握します。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握します。 ・文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容を解釈します。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫します。 ・東西の文化を比較して述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述します。 ・具体（例示）と抽象（意見）の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解します。
9	「文化」としての科学（池内了）	・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を整理します。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握します。 ・科学の技術化に抱く「危惧」を自身にも関わる問題として捉えます。 ・調べたことを整理して、説明資料にまとめます。 ・自分の考えが的確に伝わるように、根拠の示し方を工夫します。 ・父との過去の会話を重層的に描いた構成を把握し、一冊の本にまつわる三人の人間の思いを読み取るなどして、自分の意見や考えを論述します。
10	砂に埋もれたル・コルビュジエ（原田マハ）	・常用漢字を文や文章の中で活用します。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにします。 ・文章の効果的な接続の仕方を理解します。 ・主張と論拠など、情報と情報との関係を理解します。 ・読書の意義と効用を理解します。 ・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えます。 ・本文に叙述された本に対する思いを積極的に読み取り、自分にとって思い入れのある本を、根拠を示してまとめます。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫します。

11	夢十夜（夏目漱石）	・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述します。 ・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えます。 ・解釈した内容を工夫してまとめ、積極的に紹介文を書きます。
12	論理分析【具体と抽象】 日本語は世界をこのように捉える（小浜逸郎）	・文章を分析的に読み、具体例を多用した論理の展開について理解します。 ・文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握します。 ・事柄が的確に伝わるように、表現の仕方を工夫します。
1	城の崎にて（志賀直哉）	・三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深めるなどして、自分の意見や考えを論述します。 ・常用漢字を文や文章の中で活用します。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにします。
2		・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解します。 ・読書の意義と効用を理解します。
3		・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えます。 ・作品に表れた死生観を積極的に読み取り、意見をまとめて話し合います。